

科目名	言語障害発達治療学			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	23 回	時間数	45 時間	2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
							2年 前期
【授業の目的・ねらい】 VTR評価と実践的なかわりを通して、現場に近い形での評価を行う力を身につけることができる。							
【実務者経験】 ①言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、野間こどもクリニックなどで発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。②言語聴覚士として大阪発達総合療育センター、にこにこハウス医療福祉センターにて、発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 学内での小児セラピーへの参加を通して児との接し方や言語療法の実際を体験的に学び、観察・評価・目標設定などについて基本的な知識と技術を身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象児を観察する力が身につく、基本的な評価が行える。 対象児への適切な関わりの知識と技術が身につく。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	小児セラピーについて概要を説明できる						
2	臨床において必要な情報管理について理解出来る						
3	小児セラピーにの基本的な流れについて理解できる						
4	担当児をVTRで観察し、児の大きな特性などを見つけることができる						
5	グループによるプレイセラピーの実践①						
6	VTRにて丁寧な観察が行える①						
7	グループによるプレイセラピーの実践②						
8	VTRにて丁寧な観察が行える②						
9	プレイセラピーのねらいについて概要を説明できる①						
10	グループセラピーの振り返り①						
11	プレイセラピーの評価への気づきが増える①						
12	プレイセラピーのねらいについて概要を説明できる②						
13	グループによるプレイセラピーの実践③						
14	VTRにて丁寧な観察が行える③						
15	グループセラピーの振り返り②						
16	プレイセラピーの評価への気づきが増える②						
17	プレイセラピーのねらいについて基本的な事を説明できる①						
18	プレイセラピーの評価への気づきが増える③						
19	プレイセラピーのねらいについて基本的な事を説明できる②						
20	グループによるプレイセラピーの実践④						
21	VTRにて丁寧な観察が行える④						
22	グループセラピーの振り返り③						
23	まとめ						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料							
【準備学習・時間外学習】 小児関係の講義内容を復習しておくこと。主に定型発達の理解と臨床場面で使用する検査の理解。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 レポートの評価を50点、課題の評価を30点、実技試験を20点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							